

2014年11月3日(月)

岩手日報

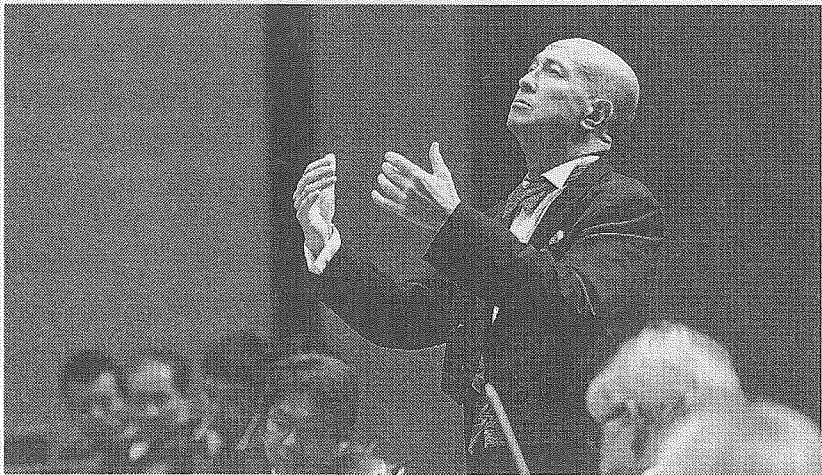
あぶろくず

咽喉がんの治療のため4月中旬から休養していた指揮者の井上道義が、演奏活動を再開した。NHK交響楽団と臨んだ復帰公演では、ブルックナーの「交響曲第9番」など3曲を指揮。大病からの復活を印象つけた。(10月11日、神奈川・鎌倉芸術館)

前半は、ショーンの「バイオリンと管弦楽のための詩曲」とマスネの「タイスの瞑想曲」。ソリストを務めたバイオリニストの前橋汀子は圧倒的な存在感で、情感豊かに甘美なメロディーを紡いでいく。オーケストラは凜としたバイオリンの音色を引き立て、しっかりと寄り添った。後半の交響曲第9番は、作曲家が書き終えることなく死を迎えた

井上道義、半年ぶり指揮

“未完”の作品で復活



演奏を指揮する井上道義＝神奈川県の鎌倉芸術館 (©星ひかる)

「未完」の作品。休養前から決まっていた演奏だが、井上は「人生が有限だと教えてくれた復帰公演での演奏に、運命的なものを感じた」という。演奏会で、井上は力強く、丁寧にオーケストラを導いた。いきりを終えた。立つような荒々しいリズムも、深く染み入るようなメロディーも、乱れることはない。前橋やオーケストラ、敵なハーモニーが聴衆を曲の世界に引き込んでいく。演奏時間は1時間を超え、井上が余韻を慈しむように指揮奏会になった。(賀)